

■ご挨拶

日本の風力発電の発展のために



日本風力発電協会 理事 小西 暁
株式会社シーテック 再生可能エネルギー事業本部 風力発電部長

はじめに

日本風力発電協会の理事を務めさせていただいております。小西でございます、名前は“ぎょう”と読みます。風力発電の世界はまだまだ素人ではありますが、皆様のお役にたてるよう努めてまいりますので、何卒よろしくお願いたします。

自己紹介など

2年ほど前から、現在の職場へ転勤し日本風力発電協会にも参加させていただくようになりました。その後、弊社の組織も“風力発電事業部”から“再生可能エネルギー事業部”に、さらに今回“再生可能エネルギー事業本部”に改め太陽光発電事業などにも事業範囲を広げているところです。

平成23年までは中部電力で主に電力流通設備の計画、建設、保守の仕事に携わってきました。なかでも特に、大規模送電線の建設の仕事に多く関わってきました。

学生時代の専攻は電気工学、高電圧工学
趣味は 黒鯛釣り、スキー、ゴルフ
遊んでばかりいるわけではありませんが、デスクワークよりは身体を動かすことが好きです。

送電線建設と風力建設

送電鉄塔の設計強度は主に風荷重で決まります、またギャロピング現象など電力線の動揺に対する設計も必要で、地形による風の収束・乱れなどにも配慮しています。その様なところは風力発電にも通じるところがあるように感じています。さらに様々な法規制・アセスなども経験してきましたが、公益性のある電力会社に比べても風力事業者はさらに厳しい状況に置かれていると実感しています。また地域のみなさまの理解が必須であることも共通しています。送電線の必要性はご理解いただいても自分の地域には作らないで欲しいとおっしゃる方は大勢いらっしゃいました。とにかく誠意をもってみなさんのご理解を得る努力をしたいと思います。

青山高原での風力発電

シーテックの風力開発は2001年に三重県で第三セクター方式の風力発電会社“青山高原ウインドファーム(AWF)”へ出資したのを皮切りに、自社のサイトとして平成15年から同県の青山高原周辺で開発を進め、平成18年にウインドパーク美里、平成22年にウインドパーク笠取を運転開始しています。さらに現在AWFが風車40基の増設工事を実施中です。

青山高原の主峰「笠取山標高(842m)」は若狭から琵琶湖を経て伊勢湾に抜ける“風の通りみち”であり地名の由来も“笠が取れるほど強い風が吹くところ”から来ています。

春はツツジ、秋にはススキなど四季折々の景観が人々を魅了します、ぜひ訪れてみてください。

式年遷宮

今年、我々が風力事業を展開している三重県では、伊勢神宮で20年に一度社殿を立替え、御装束や御神宝を新調して神様にお遷り願う「式年遷宮」が進められています。1300年前から途切れることなく続けられてきた神事で、宮大工のみならず様々な匠の技の伝承の機会になっています。

一説によれば20年というのは匠の技の継承を確実にするための周期だともいわれています。20代で師匠に習って仕事をし、40代でもう一度今度は教える立場で仕事に臨むということでしょう。

新しい社殿は、再生可能エネルギー固定価格買取制度を20年間見守ることになります。20年後の日本の風力発電はどのように発展しているのでしょうか？日本の風力発電の文化を次世代にしっかり継承していけるようJWPAのみなさんと共に努力していきたいと思っております。